

梅雨入りも近いようですが、真夏日が続くなど体調の管理が難しい季節です。水分補給と暑さ対策でまだ暑さに慣れていない体をケアしましょう。

①スギの舌下免疫治療がお奨めの方  
花粉症の薬がたくさんいるので、少しでも症状をよくするか、薬を減らしたい。眠気など、薬の副作用がある。まだ若いので、これからずっと毎年花粉症に悩むのか考えると心配。数年以内に妊娠の希望や予定はないが、将来に妊娠した際に薬が使えないのが不安。高校・大学などの受験期がスギ花粉症と重なるので、少しでもよくしておきたい。

上記のような方は舌下免疫治療がお奨めです。花粉症のオフシーズンである6月以降が治療開始には、適しています。詳しくは医師までご相談ください。

②気象病としてのめまい

気象病は、気圧・気温・湿度など気象の大きな変化によって自律神経が乱れることが原因で起こると考えられています。特に、気圧の変化による影響がとても大きいと言われていて、その中でも“気圧が低下する



とき”に症状が出やすいと言われていきます。梅雨の時期は梅雨前線を低気圧が横断するため日本列島の気圧は低下しやすくなります。また台風は大型の低気圧であるため、台風の接近に伴い気圧は低下します。気象病の症状がこれらの時期に集中するのはそのためだと考えられています。気圧の変化によって気象病の症状が出やすいのには、「内耳」が深く関係していると考えられています。内耳は主に、耳で受けた情報を脳や神経に伝える役割をしています。近年の研究により、内耳の前庭器官には気圧の変化を感知する場所と能力があることが明らかになりました。これにより、大きな気圧の変化が起こると内耳のセンサーがそれを感知し、その情報が脳に伝わるということが判明しました。また、このセンサーは人によって感じ方が異なり、気象病を訴える人の多くは、何らかの原因でこのセンサーが敏感なため、脳に過剰に情報が伝わり、その結果、自律神経（交感神経と副交感神経）のバランスが崩れ、症状が出やすいのではないかと考えられています。天気でめまい症状が、変化しやすい人はこのセンサーが敏感な可能性が高いと考えられます。



院長



看護師 角田

最近コロナの関係でいろいろな会議や講演会などが、WEBで開催されるようになりました。会場への移動距離がなくなったことやオンデマンドで後から自分の都合のいい時間に講演を聴くことが出来るなどメリットも多いと感じています。ただ講演会などで直接人と接していた機会が失われ人間関係が希薄になった気がします。リアル開催の講演会などがそろそろ恋しくなってきました。

私の故郷は岐阜県の山間部の過疎地域です。先日、東海テレビのスイッチで都会からの移住番組に、私の実家と母が一瞬映りました！87歳でテレビ初出演(^^)



耳鼻咽喉科まつだクリニック

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	×	○	◎	×
3:30~6:30	○	○	○	×	○	×	×

診療科目  
耳鼻咽喉科  
アレルギー科  
気管食道科

◎ 9:00~13:00

休診日 木、日曜日、祝日

篠木町6丁目2426番地（篠木6丁目バス停前）  
☎ 0568-86-4133 予約 0568-86-4890  
ホームページ：http://www.matsuda-cl.com